

## 九州大学新聞記事索引 三

<https://doi.org/10.15017/1498310>

---

出版情報：九州大学大学史料叢書. 21, 2015-03-31. 九州大学大学文書館  
バージョン：  
権利関係：

## 九州大学新聞記事索引 三

## 解 説

### 一、復刊、そして休刊へ

ここに収録するのは、昭和四十二年四月十五日（五五五号）から昭和六十一年五月二十五日（七九八号）までに発行された『九州大学新聞』の記事索引である<sup>1</sup>。

『九州大学新聞』は、月刊誌として発行日を毎月二十五日としていたが、昭和四十二年から四十六年の間は「臨時増刊号」というかたちで、年十七、八回の発行がなされた。その後も引き続き臨時増刊を重ね、昭和四十八年と四十九年には計十四、五回程度発行された。定期予約購読の料金は郵送代込で、半年二〇〇円・年間四〇〇円であった。昭和四十九年三月には、郵送料金・紙・インク・印刷料金等の上昇により、半年四〇〇円・年間八〇〇円へと定期予約購読の料金が値上げされた<sup>2</sup>。さらに、昭和五十四年には半年五〇〇円・年間一〇〇〇円<sup>3</sup>、翌年の五十五年には四年間で五〇〇〇円<sup>4</sup>へと値上がりした。なお、物価上昇の影響を受けたためか、昭和五十年以降、「臨時増刊号」は発行されていない。

昭和五十八年には、昭和四十九年以降課題となっていた新聞部の部員不足問題がさらに深刻化した。こうした人手不足に加え紙面の内容をめぐって確固たる展望をもてないことなどを理由に、昭和五十九年の六月～十一月まで休刊を余儀なくされた<sup>5</sup>。同年十二月（七八三号）には刊行を再開したが、平成十五年三月二十五日に第九五四号をもって休刊となった<sup>6</sup>。

### 二、学内での大学新聞の役割

記事の内容を概観すると、学内ニュース、社会情勢、文芸のほか、学生生活や社会問題に関する様々な特集が生まれ充実している。

昭和四十二年から六十一年という時期は、九州大学の学内組織が整備拡充をみた時期であった。共同利用施設の他、昭和四十二年には歯学部、昭和四十九年に歯学研究科、昭和五十四年には総合理工学研究科を設置し、昭和六十一年には創立七十五周年を迎えた。

しかし、学生の関心は、学内というよりも主に学外に向けられている。たとえば、安保闘争以降沈滞していた学生運動は、日韓条約反対闘争、学園闘争、ベトナム反戦闘争を中心に昭和四十年代の高揚期に入ったため、学生運動に関する記事が非常に多い。中でも、「エンタープライズ寄港問題」、「米軍機の墜落と基地撤去運動」等は、九州大学における学生運動を象徴する記事として目を引く。

また、教員の『九州大学新聞』に対する関心も見逃せない。例えば、教養部長の立田清朗は寄稿文「学生に期待するものは」で以下のように述べている。

新聞の“盲点”の欄に「合格が決まった今、喜びにうち震え、学問の頂きを極めようという決意にうずうずされているかもしれません。…このウズウズがやがて一ヶ月も経てばウダウダ・イライラに変じてくるであろうことは請け合いです。…おそらく、あなたが講義を聴き捨て、講義があなたを聞き捨てにするような、無意味な毎日が静かに過ぎてゆくことで

しょう。」という先輩学生からの一文があった。現代の学生全てとは言えないまでも、学生が入学後に落ち入り易い共通の状況が時間の経過と共にうまく表現されていると感心した<sup>7</sup>。

「盲点」とは、『九州大学新聞』の一面に掲載された四年生の新聞部員による比較的小さなコラムである<sup>8</sup>。コラムを通して、4年生の新聞部員が下級学年の学生に送った言葉に、立田は目をとめたのである。そして、上記の通り引用したのであった。

この様子から分かることは、『九州大学新聞』に関心をもつ教員がいた事である。学生達がつくる新聞は、教員にとって、“新人類”といわれた学生を知り理解するのに適当な資料の一つだったのかもしれない。

しかも、立田が引用したこの「盲点」には以下のような続きがある。

よく考えてみて下さい。今までのような、前に倣い(マ)の朝礼も、いやでもつき合わされ3年間行事も、解けるようになるにつれてやる気の出てる受験参考書もないのである。したがって何をするかを自分で考える必要が出てくるのです<sup>9</sup>

大学生活を送るうえでの教訓を上級学年の学生が下級学年の学生に伝える役割も同新聞が担っていた様子が垣間見える。

### 三、大学新聞の大学史的価値—大学の生態誌としての『九州大学新聞』

学内外での大学生の様子がよくわかることも、大学新聞の特筆すべき特徴である。

最近、学生の授業出席率がきわめて良い。私など、学生時代に授業をサボって

いた者にとっては、これは脅威ですらある。しかし、出席率の良いということは、必ずしも好ましいこととはいえない。ただ黙々とノートを取り、試験をパスするが、授業以外の勉強は全くしないという学生が増えてきているように感じられるからである。私の学科では、学生と教員の側が「つまらない講義はなるべくサボって、自分の好きなことを徹底的にやってみたらどうか。ただ知識を詰め込まれるだけでは飼われている豚みたいなものだ」と挑発をかけたところ、「我々にはそうなることが要求されているのではないですか」、「授業にでて試験にパスするのがやっとなら、あとは何をやる余裕もありません」という返事が返って来て啞然としたことがある。学生がきわめて受動的な「生徒」になってきている<sup>10</sup>。

ここから、学生達の非常に真面目な授業態度が見て取れる。しかし一方で、その真面目さが学問に対する知的欲求からくるものではなく、「試験をパスする」ために単に知識を詰め込んでいるにすぎないことに教員は危惧の念を抱いている。そして、こうした学生の「受動的」な姿勢を学生の「生徒」化とここでは表現している。平成に入り論じられるようになったとされる大学生の「生徒化」<sup>11</sup>が昭和四十年代にすでに指摘されている点は非常に興味深い。

また、大学生の学外での様子に関しては、例えば、「九大生の生活類聚」という記事で、喫茶店での過ごし方を以下のように紹介している。

学生という身分にあるがゆえに、特別に許される—と私は思うのだが—喫茶店の利用方法のワサビのきいたところを述

べよう。まずこの空間を学内同様に心得べきこと。なにしろ金を払うことになってるんだ、遠慮は無用、どしどしとありとあらゆる目的の為に使いたまえ。つまりここで何を食べよう飲もうなどと考えて入ってくる奴は馬鹿で、場所が必要だからこそ行くのだ。例えば、一人でコーヒー一杯で五時間ねばること。こんなことが恥かしい、嫌だ、などと考えるはいけない。堂々とお客様振りをひろうすることだ。五人でも十人でも集って雑談するときも後から来る奴を気になんかする必要はない。満員の際は後から来た奴は帰っていくさ<sup>12</sup>。

あたかも学生達の集会所のように、喫茶店を「学内同様」の「空間」として利用していた様子が見える。

また、時には、学生同士の間でしか意味が通じないような造語の存在も同新聞記事から確認することができる。例えば昭和四十二年の記事には、「二人の友達の下宿を交互に泊り歩く学生もいるし、先輩のところに、一～二週間、イソウロウする学生もいる。彼等を総称して、「とまり屋」と称する」<sup>13</sup>とある。

こうした学生文化は、書き残さなければ時とともに風化し人々の記憶から葬り去られていく。時代の流れとともに移り変わる学生文化や大学に漂う雰囲気を知る上で、大学が発行する新聞は格好の史料になるといえよう。

(井上美香子 大学文書館百年史編集室 助教)

## 注記

<sup>1</sup> 桂進也氏（元九州大学新聞部長）より大学文書館に平成九年九月二十五日（第九〇六号）から平成十五年三月二十五日（第九五四号）までの『九州大学新聞』を寄贈して頂いた。七九九号から九〇五号まで、大学文書館で所蔵しておらず欠号である。大学文書館で所蔵する七九八号（昭和六十一年）から九〇六号（平成九年）まで期間が随分空いている為、九〇六号から九五四号までを補遺として巻末に収録した。

<sup>2</sup> 『九州大学新聞』昭和四十九年三月二十五日、六六八号。

<sup>3</sup> 『九州大学新聞』昭和五十四年一月二十五日、七二三号。

<sup>4</sup> 『九州大学新聞』昭和五十五年二月二十五日、七三五号。

<sup>5</sup> 『九州大学新聞』昭和五十九年十二月二十五日、七八三号。

<sup>6</sup> 九州大学大学文書館ホームページトピックス「桂進也氏より資料を寄贈して頂きました」（2006.08.28）より。

<sup>7</sup> 『九州大学新聞』昭和六十一年三月二十五日、七九六号。

<sup>8</sup> 『九州大学新聞』昭和六十一年三月二十五日、第七九六号。

<sup>9</sup> 『九州大学新聞』昭和六十年三月二十五日、第七八六号。

<sup>10</sup> 『九州大学新聞』昭和四十二年二月二十五日、第五五三号。

<sup>11</sup> 荻谷剛彦編『キャンパスは変わる』（玉川大学出版部 一九九五年 九～三十四頁）、毎日新聞教育取材班「当世学生考」（『大学に「明日」はあるか』一九九八年 毎日新聞社 四十九～七十九頁）、等。

<sup>12</sup> 『九州大学新聞』昭和四十二年二月二十五日、第五五三号。

<sup>13</sup> 同上。